

早期診断で早期回復

青少年のスポーツ外傷、障害

常陽新聞

発行所 常陽新聞新社
 本社 〒300-0051 土浦市真鍋2-7-6
 電話 029-821-1780(代)
 FAX 029-822-6743
 水戸支社 〒310-0852 水戸市笠原町1050-1
 電話 029-244-6420(代)
 FAX 029-244-6474
 東京支社 〒104-0061 中央区銀座8-10-8 銀座8丁目ビル4階C-2
 電話 03-6252-1547
 FAX 03-6252-1534

©常陽新聞新社 2008



製紙時代をリードする!
兵庫製紙株式会社
 代表取締役社長 井川尚武
 兵庫県姫路市豊富町豊富三二八八
 電話 〇七九二六四一―二二二(代)

きょうの紙面

http://www.joyo-net.com

7	7	6	5	5	5
7	7	6	5	5	5
土浦市民野球シエニオンV	水戸、徳島に2-0で快勝	土浦二弓道男女とも団体V	高萩で下君田のささら奉納	視覚障害者と作家のコラボ	自殺の動機「健康」と「経済」

7 リーグ快進撃の市民チーム
 つくば市をホームタウンに県内3番目のリーグ入りを目指す市民クラブチーム、スルティイバつくばが、県社会人リーグで進撃。「つくば市にプロサッカーをつくる」の立見康弘会長(39)が「地域活性化にもなる」と下支えのため奮闘している。



■サッカー少年に多い「オスグット病」
 まずサッカーに限らずスポーツ医学上、「スポーツ外傷」と「スポーツ障害」の2種類がある。前者はスポーツ中、身体に外部から力がかかることにより起こる「けが」。後者は繰り返し身体のある部位が酷使される

流経大サッカー部をサポート 瀬戸嶋政勝医師(筑波学園)に聞く

手と腕以外なら、体のどこを使っても良いとされるサッカー。そうした特性故に、試合や練習中に起こるけがは、さまざま。2005年から公式に龍ヶ崎市の流通経済大(流経大)サッカー部チームドクターを務めている瀬戸嶋政勝氏は医療面から、同部の成長を支えてきた一人だ。今の青少年サッカーを同じ氏はどう考えているか。現在のサッカー医療事情について話を聞いた。(大村寛)

軟骨から骨に成長する。そのため、ひざを伸ばす力の繰り返しで成長軟骨部が剥離(はくり)し痛みを生ずる。診断は前述の症状とレントゲン検査で判断するが、瀬戸嶋氏は早期診断が早期治療につながる。「ひざの外傷・障害の場合はレント



20日、天皇杯2回戦にチームの一員として参加した瀬戸嶋政勝医師(笠原運動公園陸上競技場)

「オスグット病は、小学4年生から中学生あたりまでの成長期に特有のひざの症状。飛んだり跳ねたり、球をける動作を繰り返すなどひざを酷使するために発生するので、サッカーに限らずスポーツ全般で起こる」と、具体的な例として、脛骨(けいこつ)粗面と呼ばれるひざの皿の下の部位が徐々に突出し痛み出す。成長期は急激

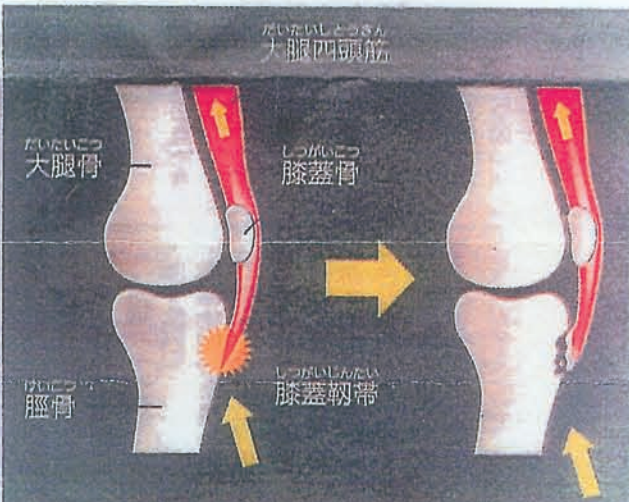
なると強く訴える。「サッカー好きの息子さんがひざの痛みを訴えても、一般の方はすぐに整形外科医の診療を受けず、3週間放っておくことが多い。中には3カ月以上経過してから来院するケースもある。遅い診断は、それだけ現場復帰も遅れる。サッカーの

ゲン検査だけでは十分」と同氏。レントゲン検査は主に骨の具合を見るだけ。半月板といた軟骨やじん帯の損傷具合をチェックするために、MRI(磁気共鳴画像)を撮ることを勧める。

「高校以降になると、サッカーを続ける傍ら、千葉市にある同大付属柏高校サッカー部の医療アドバイザーを兼ねる。普段はつくば市にある筑波学園病院整形外科の医師であり、毎週曜日は龍ヶ崎市の牛尾病院で外来診療もしている。

オスグット病

【症状・経過】 小学校高学年から中学生の発育期のスポーツ少年に起こる成長期障害。サッカー、バスケットボール、バレーボールなど飛んだり跳ねたり、膝の折り曲げの繰り返しによって発生する。成長期の代表的な病気である。
 【治療】 太もも(大腿四頭筋)を伸ばすストレッチや、皿の周囲を氷で冷やすマッサージなどを行う。



【オスグット病の病態】 太ももの前の筋肉(大腿四頭筋)の脛骨との付着部が脛骨と剥離(はくり)することによって痛む

の5人家族。特に一人息子は今夏まで土浦一高サッカー部に所属し、同部父母会顧問の立場にある。それだけに小学生から成長期を経過してきたサッカー少年のけがをいろいろと診てきた。

「高校以降になると、スポーツ外傷が多くなる。足関節ねんざや肉離れ、特にひざのじん帯損傷など」。この年代になると成長が止まることもあり、激しいタックルなどでどうしても外傷が多くなる。だが、早期診断が早い回復につながることに変わりはない。

DF宇智神選手が相手のひざを受けて目の上を傷付いた際に応急処置を施した。後半30分にもGK増田選手がゴール前の混戦で相手と接触しあごを負傷。医療用ホチキスで傷口を塞(ふさ)ぐ応急処置を施した。

20日、天皇杯2回戦の試合後あごを切ったGK増田の応急処置を施す瀬戸嶋医師(右)

特にチームドクターという立場上、流経大サッカー部選手の外傷は頻りに診る。20日に行われた天皇杯2回戦でも同氏は会場に出向き、選手の状態を観察。前半35分

■筑波学園病院▽つくば市上横場2573-11▽外来診療時間/火曜日と金曜日の午前9時~正午▽電話029-8336-6688(予約)

■牛尾病院▽龍ヶ崎市新柳町1-15-11▽外来診療時間/月曜日の午前8時半~午前11時半、午後3時~午後6時▽電話0297-66-6111